結 果 の 概 要

この報告書に掲載している数値は，四捨五入のため，内訳合計が総数に合わないことがある。

第１部　糖尿病等の状況

１．糖尿病

表１　解析対象者

（人）

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	（再掲）40-74歳
総数	4,003	204	589	557	711	934	1,008	2,624
男性	1,619	88	200	210	264	411	446	1,082
女性	2,384	116	389	347	447	523	562	1,542

※ヘモグロビンA_{1C}の測定値がある者を解析対象とした。

１－１．「糖尿病が強く疑われる人」,「糖尿病の可能性を否定できない人」の状況

▼**「糖尿病が強く疑われる人」,「糖尿病の可能性を否定できない人」の判定**▼（糖尿病実態調査（H9,H14）と同様の基準）
①「糖尿病が強く疑われる人」とは，ヘモグロビン A_{1C} の値が 6.1% 以上，または，質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人である。
②「糖尿病の可能性を否定できない人」とは，ヘモグロビン A_{1C} の値が 5.6% 以上，6.1% 未満で，①以外の人である。

図１　「糖尿病が強く疑われる人」,「糖尿病の可能性を否定できない人」の年次推移

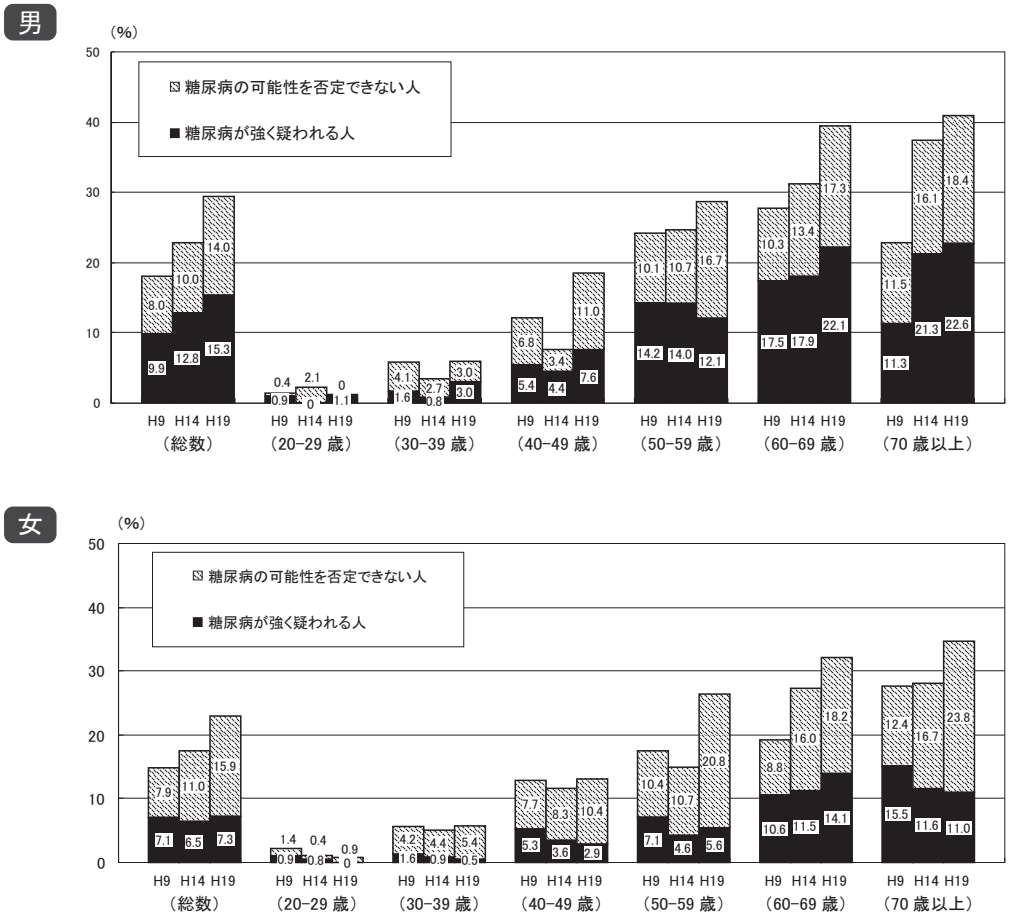


表２　「糖尿病が強く疑われる人」および「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合

		総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		（再掲）40-74歳	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	糖尿病が強く疑われる人	420	10.5	1	0.5	8	1.4	26	4.7	57	8.0	165	17.7	163	16.2	318	12.1
	（うち服薬者）※	193	4.8	1	0.5	2	0.3	11	2.0	13	1.8	88	9.4	78	7.7	149	5.7
	糖尿病の可能性を否定できない人	606	15.1	1	0.5	27	4.6	59	10.6	137	19.3	166	17.8	216	21.4	443	16.9
	上記以外	2,977	74.4	202	99.0	554	94.1	472	84.7	517	72.7	603	64.6	629	62.4	1,863	71.0
	総数	4,003	100.0	204	100.0	589	100.0	557	100.0	711	100.0	934	100.0	1,008	100.0	2,624	100.0
男性	糖尿病が強く疑われる人	247	15.3	1	1.1	6	3.0	16	7.6	32	12.1	91	22.1	101	22.6	186	17.2
	（うち服薬者）※	120	7.4	1	1.1	2	1.0	8	3.8	8	3.0	50	12.2	51	11.4	94	8.7
	糖尿病の可能性を否定できない人	226	14.0	0	0	6	3.0	23	11.0	44	16.7	71	17.3	82	18.4	170	15.7
	上記以外	1,146	70.8	87	98.9	188	94.0	171	81.4	188	71.2	249	60.6	263	59.0	726	67.1
	総数	1,619	100.0	88	100.0	200	100.0	210	100.0	264	100.0	411	100.0	446	100.0	1,082	100.0
女性	糖尿病が強く疑われる人	173	7.3	0	0	2	0.5	10	2.9	25	5.6	74	14.1	62	11.0	132	8.6
	（うち服薬者）※	73	3.1	0	0	0	0	3	0.9	5	1.1	38	7.3	27	4.8	55	3.6
	糖尿病の可能性を否定できない人	380	15.9	1	0.9	21	5.4	36	10.4	93	20.8	95	18.2	134	23.8	273	17.7
	上記以外	1,831	76.8	115	99.1	366	94.1	301	86.7	329	73.6	354	67.7	366	65.1	1,137	73.7
	総数	2,384	100.0	116	100.0	389	100.0	347	100.0	447	100.0	523	100.0	562	100.0	1,542	100.0

※「服薬者」とは，質問票で「インスリン注射または血糖を下げる薬」の使用有と回答した者。

１－２.「糖尿病が強く疑われる人」,「糖尿病の可能性を否定できない人」の推計

今回の調査結果に平成 19 年 10 月 1 日現在推計の男女別，年齢階級別の 20 歳以上人口（全体約 1 億 400 万人）を乗じて推計したところ，糖尿病が強く疑われる人は約 890 万人，糖尿病の可能性を否定できない人を合わせると約 2,210 万人と推計された（表３）。

表３　「糖尿病が強く疑われる人」,「糖尿病の可能性を否定できない人の推計」（平成 19 年）

	平成19年
「糖尿病が強く疑われる人」	約890万人
「糖尿病の可能性を否定できない人」	約1,320万人
「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の合計	約2,210万人

（参考）表４　「糖尿病が強く疑われる人」,「糖尿病の可能性を否定できない人」の推計（平成9年, 平成14年）

	平成9年	平成14年
「糖尿病が強く疑われる人」	約690万人	約740万人
「糖尿病の可能性を否定できない人」	約680万人	約880万人
「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」の合計	約1,370万人	約1,620万人

（参考）

本報では，「糖尿病の可能性を否定できない人」の判定を糖尿病実態調査（H9，H14）と同様の基準（ヘモグロビンA_1cの値が 5.6%以上，6.1%未満）を用いて行っているが，老人保健事業の健康診査では，ヘモグロビンA_1c値5.5%以上を「要指導」としているため，「糖尿病の可能性を否定できない人」について，ヘモグロビンA_1cの値が 5.5%以上，6.1%未満で判定した値についても参考値として示す。

表５　「糖尿病が強く疑われる人」および「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合

（「糖尿病の可能性を否定できない人」のヘモグロビン A_1c の値が 5.5% 以上，6.1% 未満の場合）

		総数		20-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		70歳以上		（再掲）40-74歳	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
総数	糖尿病が強く疑われる人	420	10.5	1	0.5	8	1.4	26	4.7	57	8.0	165	17.7	163	16.2	318	12.1
	（うち服薬者）※	193	4.8	1	0.5	2	0.3	11	2.0	13	1.8	88	9.4	78	7.7	149	5.7
	糖尿病の可能性を否定できない人	844	21.1	3	1.5	46	7.8	86	15.4	179	25.2	234	25.1	296	29.4	614	23.4
	上記以外	2,739	68.4	200	98.0	535	90.8	445	79.9	475	66.8	535	57.3	549	54.5	1,692	64.5
	総数	4,003	100.0	204	100.0	589	100.0	557	100.0	711	100.0	934	100.0	1,008	100.0	2,624	100.0
男性	糖尿病が強く疑われる人	247	15.3	1	1.1	6	3.0	16	7.6	32	12.1	91	22.1	101	22.6	186	17.2
	（うち服薬者）※	120	7.4	1	1.1	2	1.0	8	3.8	8	3.0	50	12.2	51	11.4	94	8.7
	糖尿病の可能性を否定できない人	314	19.4	1	1.1	15	7.5	33	15.7	60	22.7	92	22.4	113	25.3	227	21.0
	上記以外	1,058	65.3	86	97.7	179	89.5	161	76.7	172	65.2	228	55.5	232	52.0	669	61.8
	総数	1,619	100.0	88	100.0	200	100.0	210	100.0	264	100.0	411	100.0	446	100.0	1,082	100.0
女性	糖尿病が強く疑われる人	173	7.3	0	0	2	0.5	10	2.9	25	5.6	74	14.1	62	11.0	132	8.6
	（うち服薬者）※	73	3.1	0	0	0	0	3	0.9	5	1.1	38	7.3	27	4.8	55	3.6
	糖尿病の可能性を否定できない人	530	22.2	2	1.7	31	8.0	53	15.3	119	26.6	142	27.2	183	32.6	387	25.1
	上記以外	1,681	70.5	114	98.3	356	91.5	284	81.8	303	67.8	307	58.7	317	56.4	1,023	66.3
	総数	2,384	100.0	116	100.0	389	100.0	347	100.0	447	100.0	523	100.0	562	100.0	1,542	100.0

※「服薬者」とは，質問票で「インスリン注射または血糖を下げる薬」の使用有と回答した者。

▼「糖尿病が強く疑われる人」，「糖尿病の可能性を否定できない人」の判定▼

①「糖尿病が強く疑われる人」とは，ヘモグロビン A_1c の値が 6.1% 以上，または，質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人である。

②「糖尿病の可能性を否定できない人」とは，ヘモグロビン A_1c の値が 5.5% 以上，6.1% 未満で，①以外の人である。

１－３．糖尿病が強く疑われる人における治療の状況

糖尿病が強く疑われる人における治療の状況において，現在治療を受けている者の割合は，平成９年，平成１４年に比べて増加していた。

図２－１　糖尿病が強く疑われる人における治療の状況の年次推移（２０歳以上）

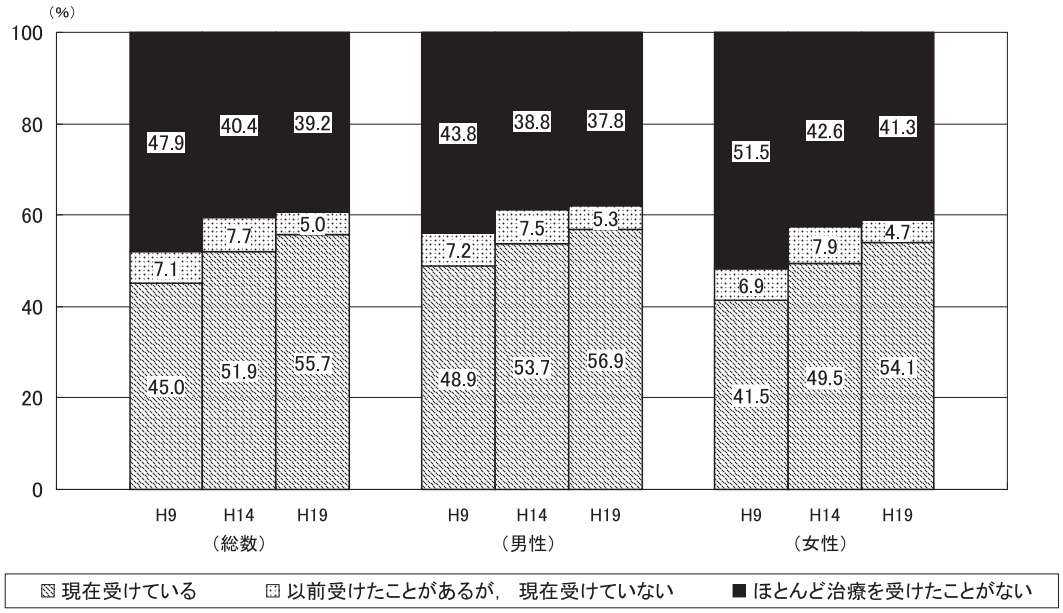
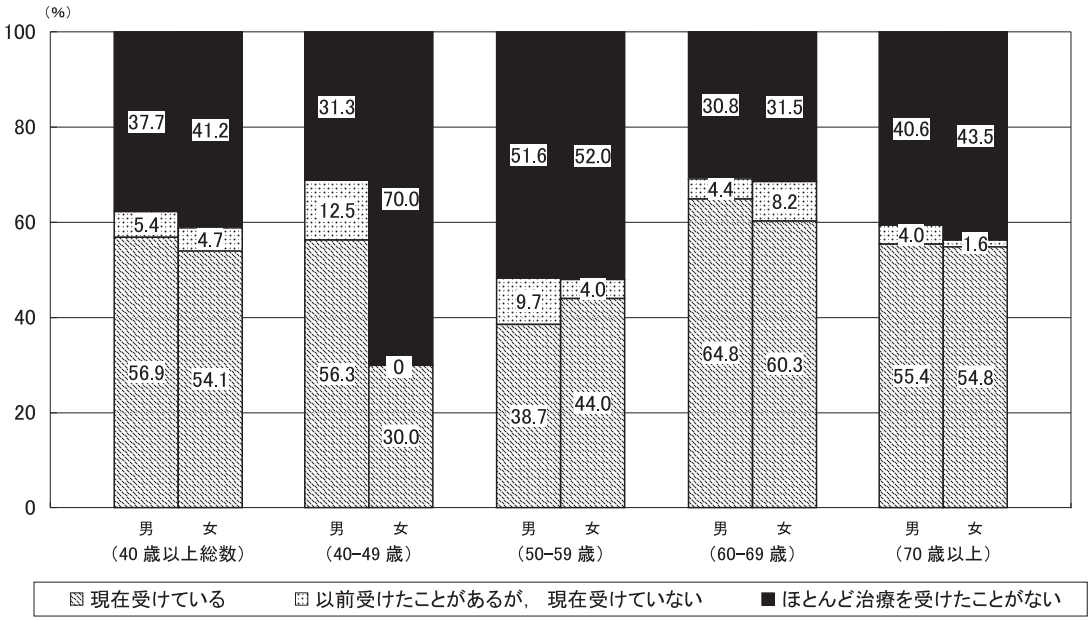


図２－２　糖尿病が強く疑われる人における治療の状況（４０ 歳以上）



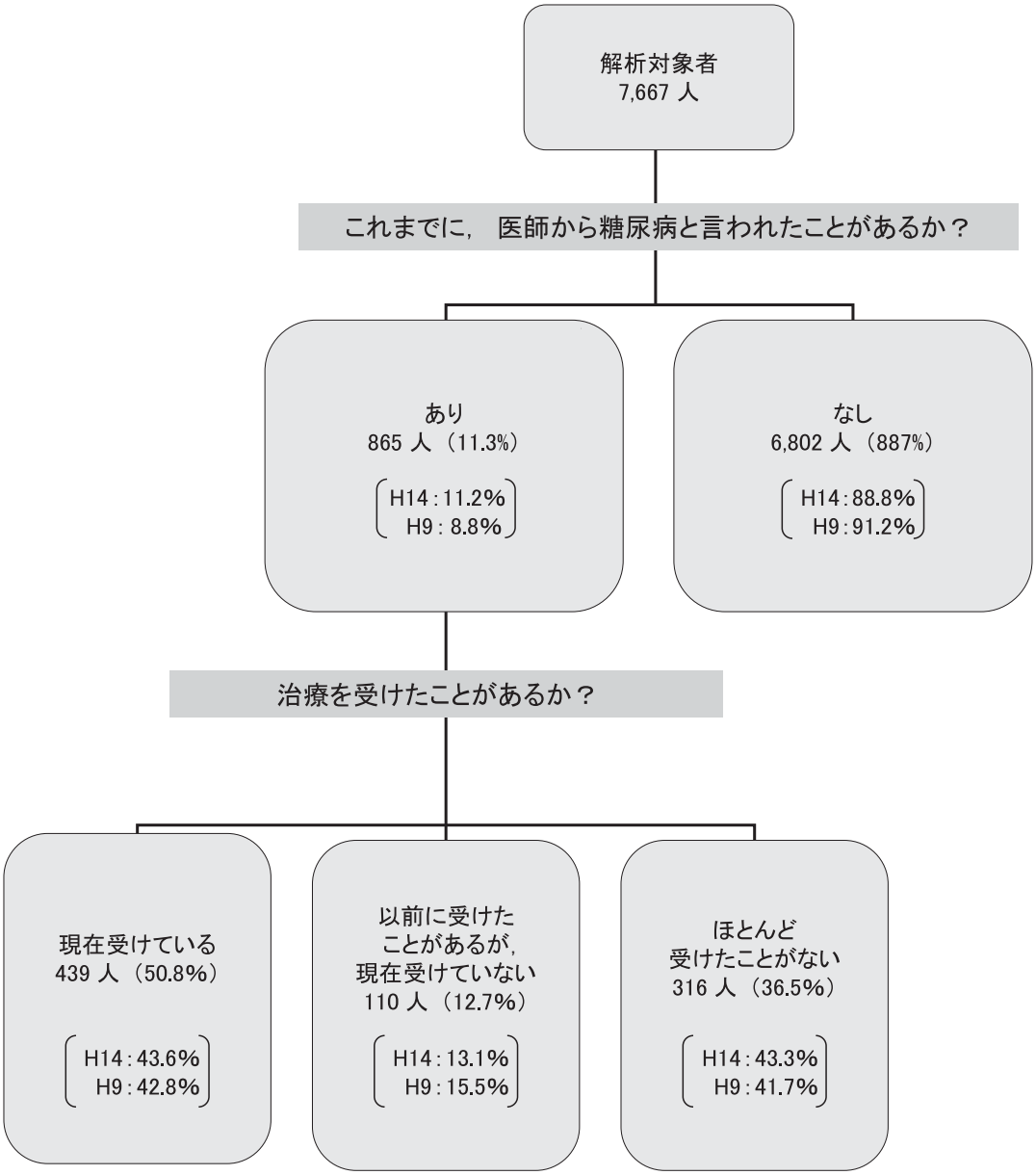
※本報告 45 頁で示した「糖尿病が強く疑われる人（ヘモグロビン A_{1c} の値が 6.1% 以上，または，質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた人）」について，「糖尿病の治療を受けたことがあるか」という問をまとめた結果である。

なお，図２－１及び図２－２の「ほとんど治療を受けたことがない」は，「医師から糖尿病と言われたことがない」者（男 62 名，女 54 名）を含む。

１－４．糖尿病に関する医療サービス

医師から糖尿病と言われたことがある人（「境界型」，「糖尿病の気がある」，「糖尿病になりかけている」，「血糖値が高い」等のように言われた人も含む）は，平成 14 年と同水準だったが，「現在治療を受けている」人は増加していた。

図３　糖尿病に関する医療サービスの状況（20 歳以上）

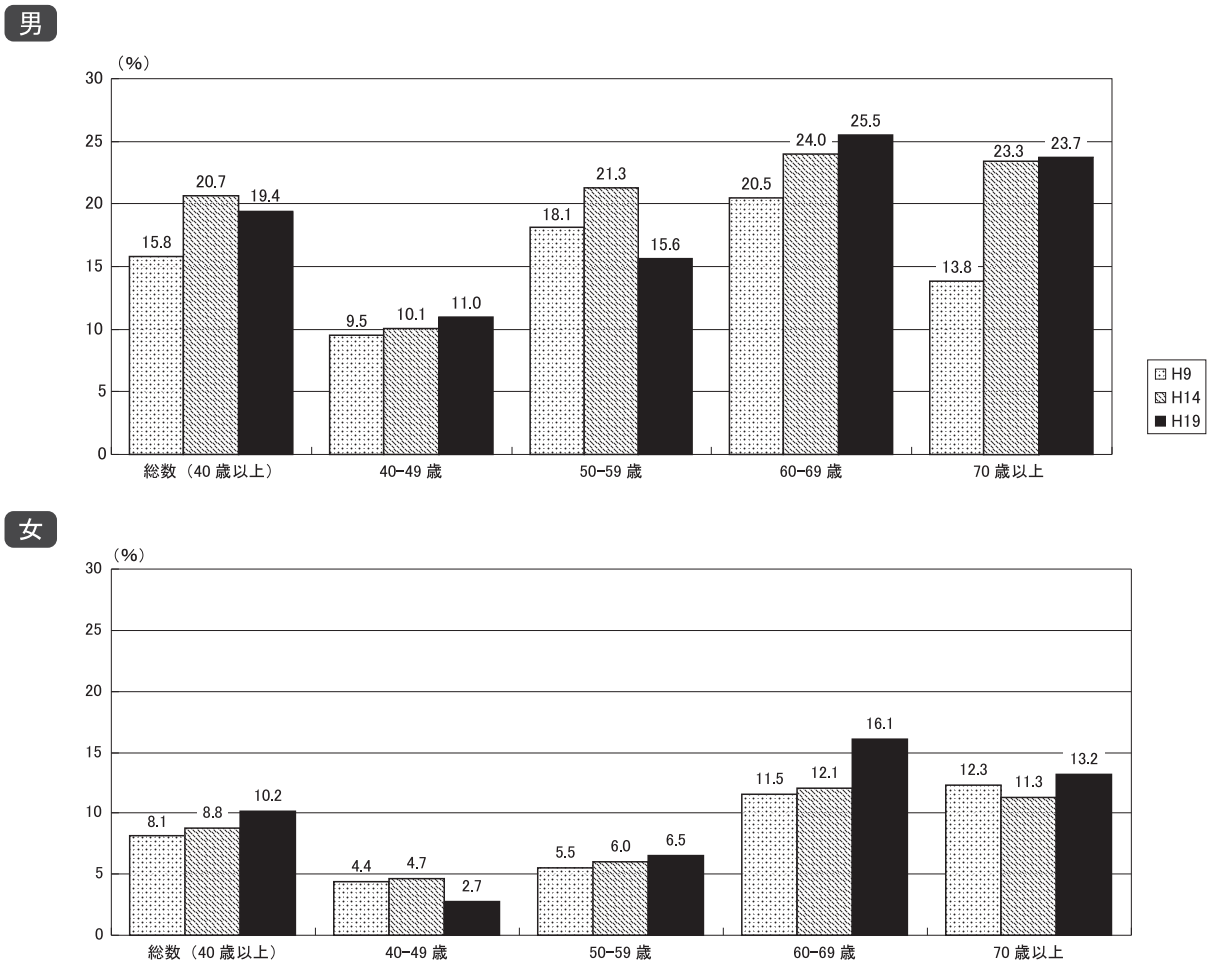


注）各問における未回答者を除いた上での集計結果である。

1－5．医師から糖尿病と言われた人の状況

医師から糖尿病と言われた人（「境界型」，「糖尿病の気がある」，「糖尿病になりかけている」，「血糖値が高い」等のように言われた人も含む）の割合は，40 歳以上で，男性 19.4%，女性 10.2% であった。

図４　医師から糖尿病と言われた人の割合の年次推移（40 歳以上）



※「これまでに医師から糖尿病と言われたことがある」には，「境界型である」，「糖尿病の気がある」，「糖尿病になりかけている」，「血糖値が高い」等のように言われた人も含まれている。

１－６．医師から糖尿病と言われた人における合併症の状況

「医師から糖尿病と言われた人における，治療経験別合併症の割合」は，神経障害が最も多く，11.8% であった。また，合併症がある者について，治療の状況を見ると，「現在治療を受けている」者が約７割。

表６　医師から糖尿病と言われた人における合併症の割合（20 歳以上総数）

神経障害なし	神経障害あり	
757人 （88.2%）	101人 （11.8%）	
	（再掲）現在治療を受けている	79人 （78.2%）
	（再掲）以前治療を受けたことがあるが，現在受けていない	10人 （9.9%）
	（再掲）ほとんど治療を受けたことがない	12人 （11.9%）

網膜症なし	網膜症あり	
766人 （89.4%）	91人 （10.6%）	
	（再掲）現在治療を受けている	67人 （73.6%）
	（再掲）以前治療を受けたことがあるが，現在受けていない	8人 （8.8%）
	（再掲）ほとんど治療を受けたことがない	16人 （17.6%）

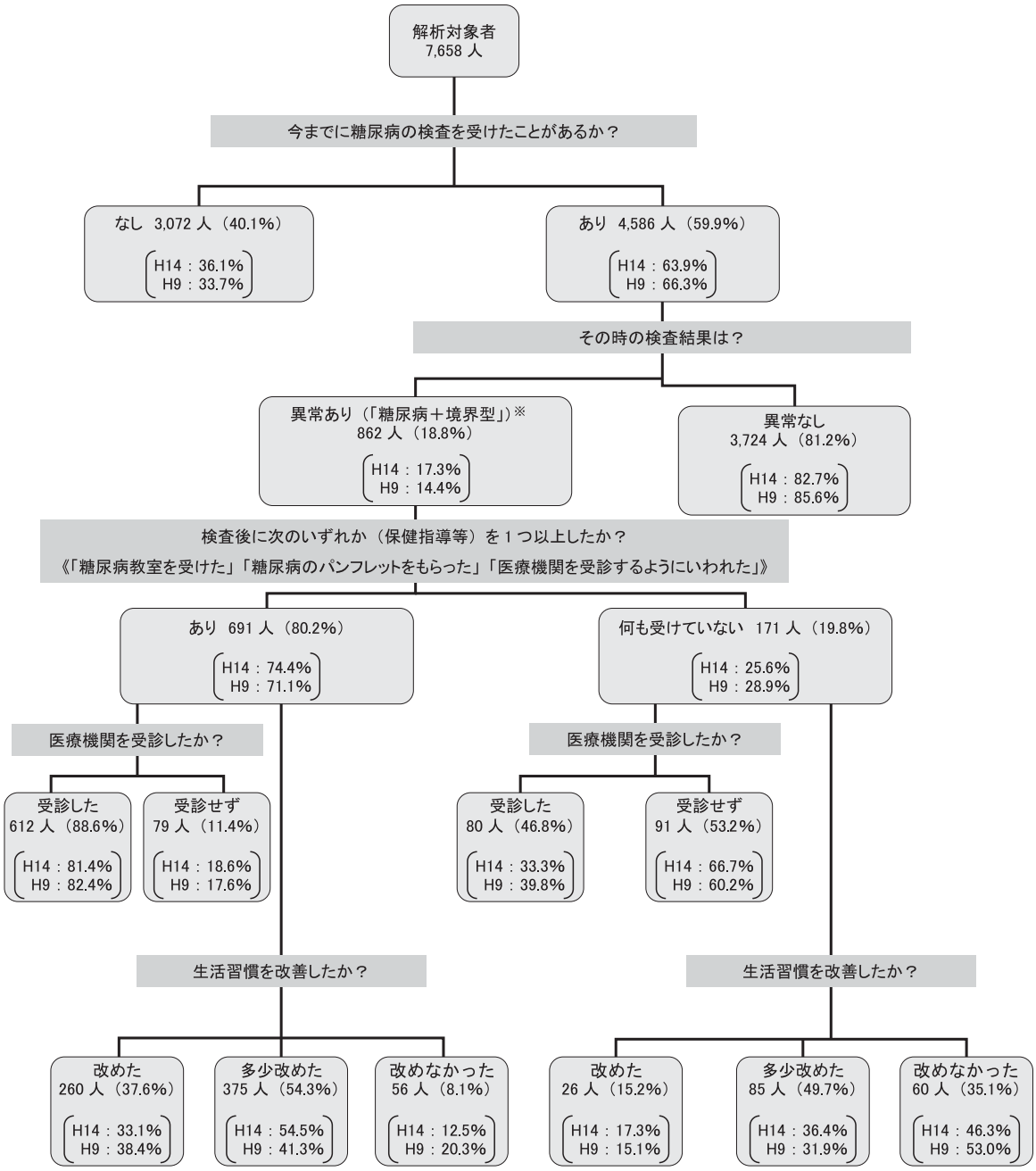
腎症なし	腎症あり	
760人 （88.9%）	95人 （11.1%）	
	（再掲）現在治療を受けている	70人 （73.7%）
	（再掲）以前治療を受けたことがあるが，現在受けていない	9人 （9.5%）
	（再掲）ほとんど治療を受けたことがない	16人 （16.8%）

足壊疽なし	足壊疽あり	
850人 （99.3%）	6人 （0.7%）	
	（再掲）現在治療を受けている	4人 （66.7%）
	（再掲）以前治療を受けたことがあるが，現在受けていない	1人 （16.7%）
	（再掲）ほとんど治療を受けたことがない	1人 （16.7%）

１－７．糖尿病の検査と保健指導等

これまでに健康診断などで糖尿病の検査を受けたことがあり，「糖尿病と言われた」者，「境界型」だった者において，検査後に，「糖尿病教室を受けた」，「糖尿病のパンフレットをもらった」，「医療機関を受診するようにいわれた」のいずれか１つ以上回答した者の割合は 80.2% であった。そのうち，「生活習慣を改めた」と回答した者は約９割であった。

図５　糖尿病の検査と保健指導等（20 歳以上）



※ここでいう「異常あり」とは，「糖尿病である」，「境界型である」，「糖尿病の気がある」，「糖尿病になりかけている」，「血糖値が高い」などと言われた人を含む。

注）各問における未回答者を除いた上での集計結果である。

１－８．糖尿病の予防や治療に関する情報源

糖尿病の予防や治療に関する情報源は，男女ともに，「テレビ・ラジオ」，「新聞」，「雑誌・本」と回答した者が多かった（複数回答可）（図６－１）。

項目別に見ると，「テレビ・ラジオ」，「雑誌・本」と回答した者の割合は，40～60 歳代女性で特に高かった。また，「健診・人間ドック」と回答した者の割合は，50 歳以上男性で特に高かった（図６－２）。

図６－１　糖尿病の予防や治療に関する情報源（20 歳以上）

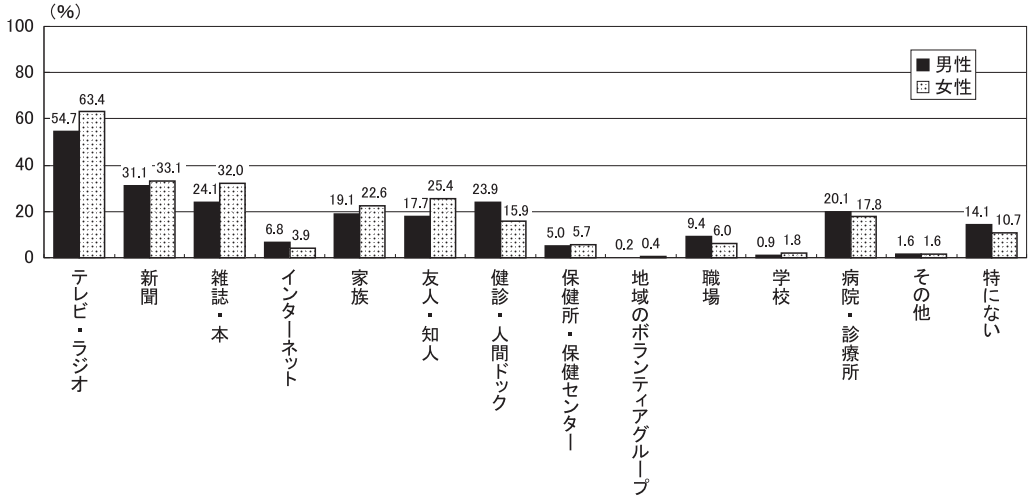
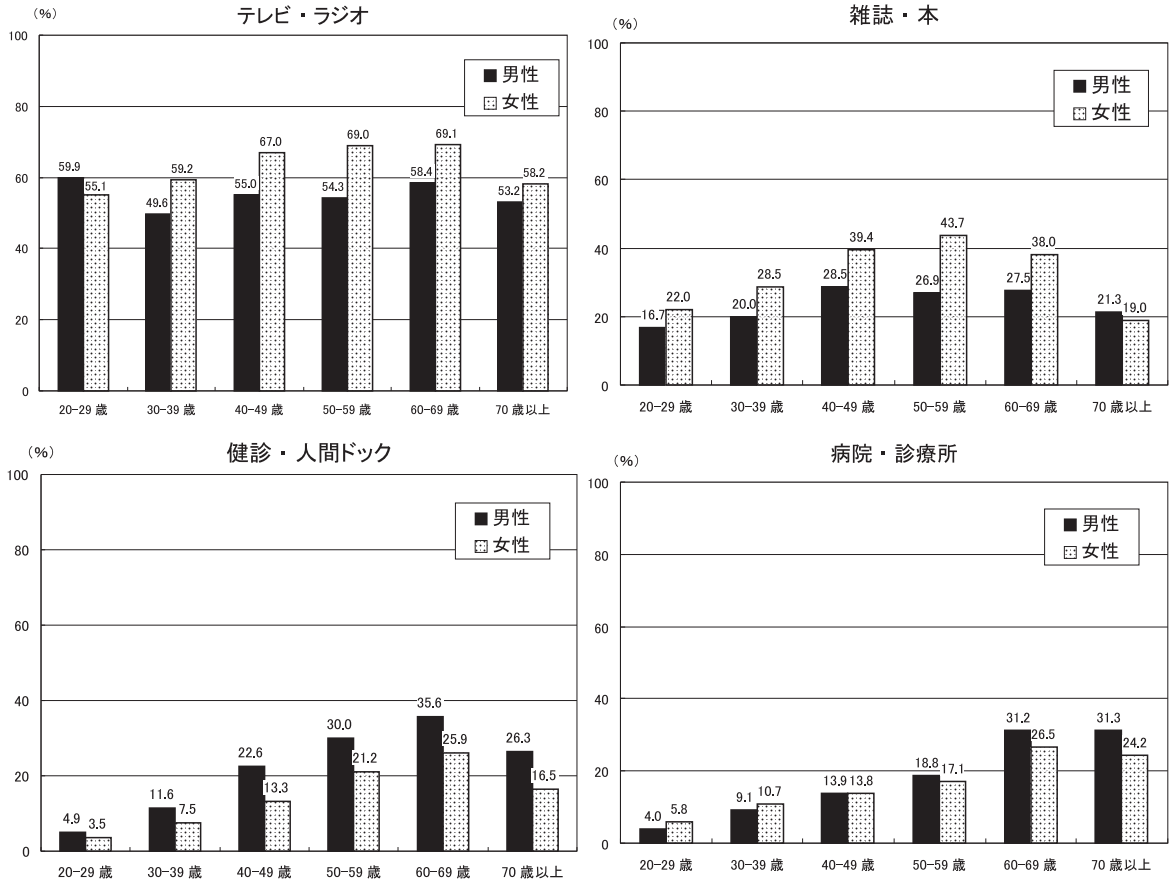


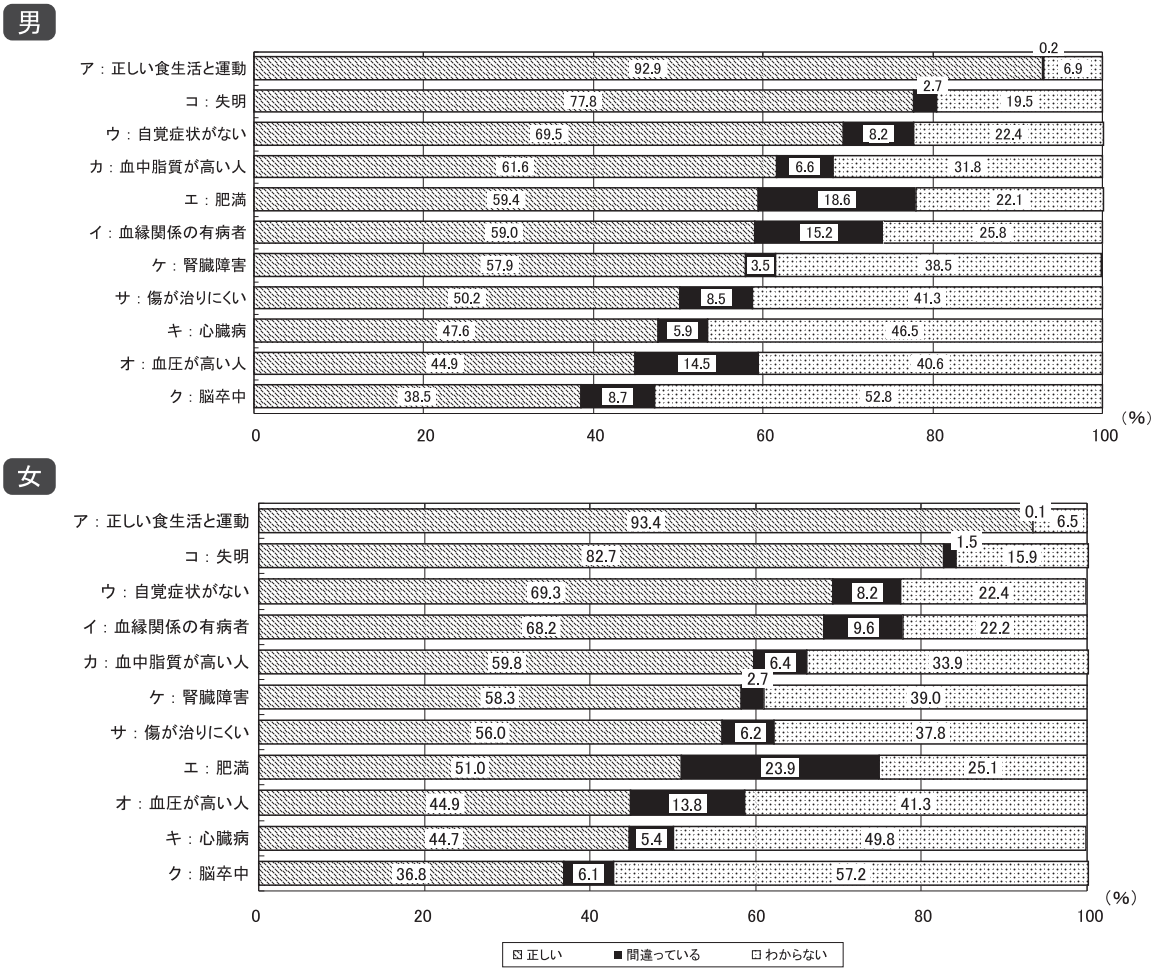
図６－２　糖尿病の予防や治療に関する情報源（項目別）



１－９．糖尿病に関する知識の状況

糖尿病に関する知識について，正答率が高かったものは，男女ともに，「正しい食生活と運動習慣は，糖尿病の予防に効果がある」，「糖尿病は成人における失明の原因になる」であった。

図７　糖尿病に関する知識の状況（20 歳以上）



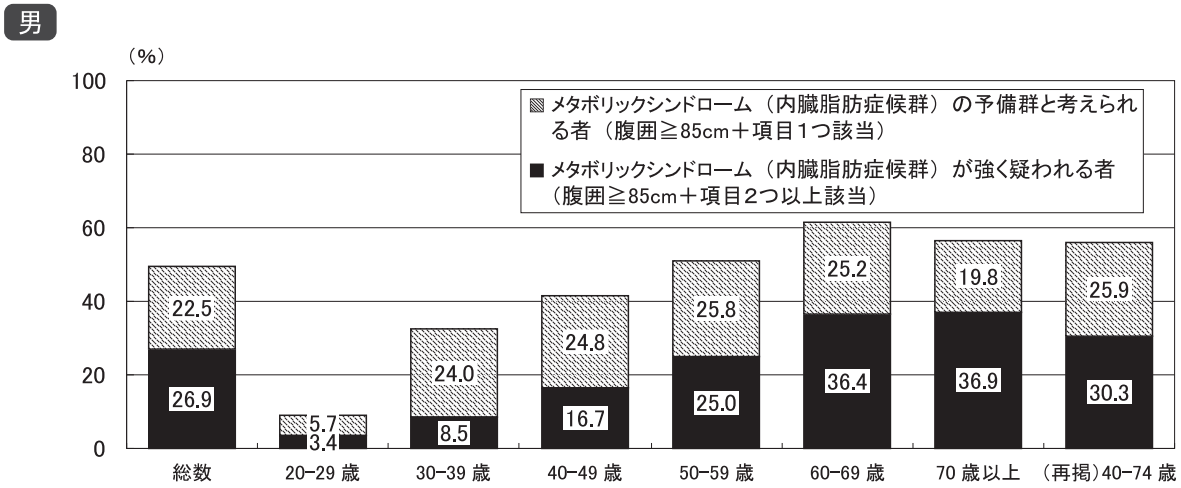
【質問項目】

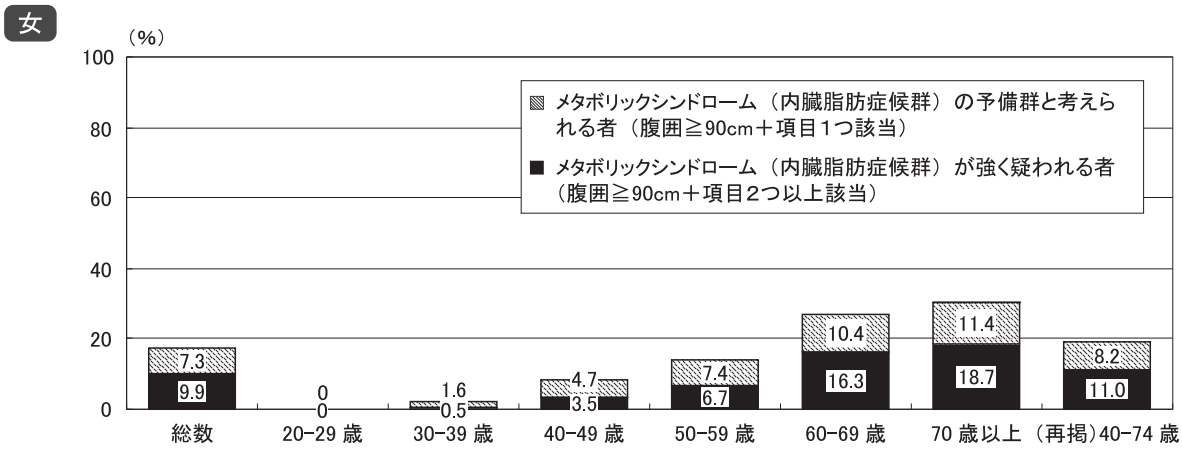
ア．正しい食生活と運動習慣は，糖尿病予防の効果がある
イ．血のつながった家族に糖尿病の人がいると，自分も糖尿病になりやすい
ウ．糖尿病になっても，自覚症状がないことが多い
エ．太っていると，糖尿病になりやすい
オ．糖尿病の人には，血圧の高い人が多い
カ．糖尿病の人には，血液中のコレステロールや中性脂肪が高い人が多い
キ．軽い糖尿病の人でも，狭心症や心筋梗塞などの心臓病になりやすい
ク．軽い糖尿病の人でも脳卒中になりやすい
ケ．糖尿病は腎臓障害の原因となる
コ．糖尿病は成人における失明の原因になる
サ．糖尿病の人は，傷が治りにくい

2．メタボリックシンドローム

40～74 歳でみると，男性の２人に１人，女性の５人に１人が，メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者又は予備群と考えられる者。

図８　メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の状況（ 20 歳以上）





※各年代のメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者と予備群と考えられる者について，平成 19 年 10 月 1 日現在推計の男女別，年齢階級別の 40-74 歳人口 (全体約 5,800 万人中）を用い，それぞれ該当者，予備群として推計したところ，40-74 歳におけるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の該当者数は約 1,070 万人，予備群者数は約 940 万人，併せて約 2,010 万人と推定される。

(参考)表７　メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の該当者，予備群の推計(平成16年, 平成17年, 平成18年)

	平成16年	平成17年	平成18年
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者（該当者）	約940万人	約920万人	約960万人
メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予備群と考えられる者	約1,020万人	約980万人	約980万人

※ただし，平成 19年調査より，服薬状況の問に「中性脂肪（トリグリセライド）を下げる薬」が追加された為，平成 19年の結果は平成 18年以前の結果と単純比較できない。

“メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の疑い”の判定

国民健康・栄養調査の血液検査では，空腹時採血が困難であるため，メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の診断基準項目である空腹時血糖値及び中性脂肪値により判定はしない。したがって，本報告における判定は以下の通りとした。

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる者

腹囲が男性 85 cm，女性 90 cm 以上で，3 つの項目（血中脂質，血圧，血糖）のうち 2 つ以上の項目に該当する者。

※“項目に該当する”とは，下記の「基準」を満たしている場合，かつ/または「服薬」がある場合とする。

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予備群と考えられる者

腹囲が男性 85 cm，女性 90 cm 以上で，3 つの項目（血中脂質，血圧，血糖）のうち 1 つに該当する者。

腹 囲	腹囲(ウエスト周囲径) 男性:85cm以上 女性:90cm以上

項目	血 中 脂 質	血 圧	血 糖
基準	・HDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値 40mg/dl未満	・収縮期血圧値 130mmHg以上 ・拡張期血圧値 85mmHg以上	・ヘモグロビンA_{1c}値 5.5%以上
服薬	・ｺﾚｽﾃﾛｰﾙを下げる薬服用 **・中性脂肪を下げる薬服用**	・血圧を下げる薬服用	・血糖を下げる薬服用 ・インスリン注射使用

（参考：厚生労働科学研究 健康科学総合研究事業「地域保健における健康診査の効率的なプロトコールに関する研究～健康対策指標検討研究班中間報告～」平成 17 年 8 月）

※老人保健事業の健康診査では，ヘモグロビン A_{1c} 値 5.5% 以上を「要指導」としているため，メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の疑いに関する判定項目である血糖を“ヘモグロビン A_{1c} 値 5.5%”とした。

（参考） メタボリックシンドロームの診断基準

（日本動脈硬化学会，日本糖尿病学会，日本高血圧学会，日本肥満学会，
日本循環器学会，日本腎臓病学会，日本血栓止血学会，日本内科学会，2005 年 4 月）

（※上記との比較のため，記載方法を一部変更し，上記とほぼ同様の様式とした。）

メタボリックシンドローム

内臓脂肪（腹腔内脂肪）蓄積に加え，下記の 2 つ以上の項目に該当する場合。

※“項目に該当する”とは，下記の「基準」を満たしている場合，かつ/または「服薬」がある場合とする。

内臓脂肪(腹腔内脂肪)蓄積	**ウエスト周囲径** 男性:85cm以上 女性:90cm以上 （内臓脂肪面積 100cm^2以上に相当（男女とも））

項目	血 中 脂 質	血 圧	血 糖
基準	・中性脂肪(TG)値 150mg/dl以上 （高ﾄﾘｸﾞﾘｾﾗｲﾄﾞ血症） ・HDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ値 40mg/dl未満 （低HDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症）	・収縮期血圧値 130mmHg以上 ・拡張期血圧値 85mmHg以上	・空腹時血糖値 110mg/dl以上
服薬	・高ﾄﾘｸﾞﾘｾﾗｲﾄﾞ血症に対する薬物治療 ・低HDLｺﾚｽﾃﾛｰﾙ血症に対する薬物治療	・高血圧に対する薬物治療	・糖尿病に対する薬物治療

＊CT スキャンなどで内臓脂肪量測定を行うことが望ましい。

＊ウエスト径は立位，軽呼気時，臍レベルで測定する。脂肪蓄積が著明で臍が下方に偏位している場合は肋骨下縁と前上腸骨棘の中点の高さで測定する。

＊メタボリックシンドロームと診断された場合，糖負荷試験が薦められるが診断には必須ではない。

＊糖尿病，高コレステロール血症の存在はメタボリックシンドロームの診断から除外されない。